

# アーチェリー競技における安全対策

埼玉県高体連アーチェリー専門部

長澤和美

## 1 埼玉県におけるアーチェリーの現状

部活動 9 校・同好会 1 校（中学校 2 校+1 地区）

高校生の登録数は全国でもトップクラス

（22年度1次登録人数：男子232名・女子82名）

## 2 競技の形式

シングルラウンド：男子は90m、70m、50m、30m、女子は70m、60m、50m、30mの各距離から、1点から10点まで別れた得点帯の的を狙って36本ずつ合計144射して合計1440満点で得点を競う。

オリンピックラウンド(個人戦)：予選ラウンドとして70mの距離から72射し、上位者により1対1の決勝トーナメントとして1セット3射で得点を競い各セットの勝者に2点、引き分けは1点が与えられ6点先取した選手が勝者となる。

オリンピックラウンド(団体戦)：70mの予選ラウンドの得点を各チーム3人の合計で順位を決め決勝トーナメント進出チームを決める。トーナメントでは1チーム3人が2分以内に交代で1人2射ずつ計6射を4回繰り返し合計点が対戦相手より高いチームが勝者となる。

※オリンピックラウンドでは、個人戦、団体戦とも決勝戦及び3位決定戦は1人1射ずつの交互射で行われる。

## 3 組織としての安全対策

全国高体連アーチェリー専門部

「部活動要綱」 安全対策（アーチェリー部員の遵守事項）

「事故防止のための安全指導対策」

「高校生のアーチェリー部活動を安全に行うために」

埼玉高体連アーチェリー専門部

各校練習場の安全確認（委員長）

大会時に全部員を対象とした安全講習

全日本アーチェリー連盟

「安全規定 — アーチャーの安全マナー —」

## 各大会

会場設営（立ち入り制限区域、防矢ネット等）

弓具検査（ルールに適応していることはもちろん破損等ないか）

行射管理（審判・役員による安全な試合進行）

## 4 具体的な安全指導

- (1) 弓具は常に点検すること（特に弦切れ）
- (2) 他人の弓具に無断で触れないこと
- (3) アームガード等は必ず使用すること
- (4) ストリンガーで弦を張るときは、弓の上に顔を置かないようにする
- (5) 身体にフィットした服装で行射すること
- (6) 的の方向に人がいたら決して行射しないこと
- (7) 人のいる方向に向いてたとえ矢をつがえていなくても弓を引かないこと
- (8) セットアップの時、弓を顔の高さより上段に構えて引き込み（ドローイング）をしないこと
- (9) 空引き（矢をつがえずに弦を離すこと）はしないこと
- (10) 行射及び矢取りは、全員同時に合図をもって行うこと
- (11) 矢を抜くとき、矢の後方に人がいないことを確認してから抜くこと
- (12) 的の後方に矢取りに行くときは安全を確認しておこなうこと
- (13) 弓を安全に扱うために、体力に合った強さの弓を使用すること
- (14) アーチェリー競技は危険な道具を使うスポーツであることを認識し、十分に注意して行うこと

「全国高体連アーチェリー専門部 部活動要領」より